

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公益財団法人東京YWCA社会福祉事業部として、キリスト教を基盤とした一人ひとりを大切にする考え方</li> <li>2) 学童クラブを第二の家庭として、子どもにとって安心安全な居場所とする</li> <li>3) 保護者が安心して子どもを預けられるように信頼関係を築く</li> <li>4) 職員が安心して働くことができ、仕事と生活が充実するような場とする</li> <li>5) 学校や地域と協力して子どもを見守り育むことができる関係性を築く</li> </ol>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>小さき弱き存在としての子どもに手を差し伸べ、成長を支援することができる人。 保護者や同僚など、誰をも差別することなく、平等に対応できる人。 子どもの個性を尊重し、自主性を重んじ、子どもの意見に耳を傾けて行動できる人。 子どもが挑戦したり、感動したり、喜んだりすることに寄り添える大人。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>常勤職員や資格を保有する非常勤職員に、学童クラブの役割を認識して、子どもの成長を支援することに努力してほしい。 全職員に、子どもに対応するのに役立つ能力や技術を身に着けるよう研鑽を積んでほしい。 常勤職員には、非常勤職員が能力を活かせるように役割を考えて仕事配分をし、また職員自身も成長するように見守ってほしい。</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である70名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生16名、2年生26名、3年生19名、4年生1名、無回答2名であった。

調査方法

事業所と連名の依頼文を同封し、事業所から配布してもらうアンケート調査を実施した。アンケートは利用者に直接用紙を渡し、封をして提出してもらった。

利用者総数

70
----

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
70	0	70
64	0	64
91.4	0.0	91.4

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

**利用者調査全体のコメント**

回答者の属性は、「利用者本人」が100.0%であった。  
 総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の73.4%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が12.5%、「ややよくない」が1.6%、「よくない」が3.1%、「無回答」が9.4%であり、高い満足度が得られている。  
 項目別では、＜生活について＞に関する5設問は2設問において、高い満足度であった。特に「学童での生活や遊びは楽しく興味が持てるものになっているか」では、73.4%の高い満足度が得られている。  
 ＜安心・快適性＞に関する4設問は1設問において、大変高い満足度であった。特に「けが・体調不良時の対応」では、82.8%の非常に高い満足度が得られている。  
 ＜あなたを大切にしてくれているか＞に関する2設問は全設問で、概ねの利用者が満足とする回答を得られている。  
 ＜嫌なことや、してほしいことについて＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外への相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	47	10	2	5
「はい」が73.4%、「どちらともいえない」が15.7%、「いいえ」が3.1%、「無回答・非該当」が7.8%であり、高い満足度であった。自由意見では、「楽しいせいかつ」、「楽しいし外に出る時も楽しい」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	36	16	3	9
「はい」が56.3%、「どちらともいえない」が25.0%、「いいえ」が4.7%、「無回答・非該当」が14.0%であった。自由意見は特になかった。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	39	14	5	6
「はい」が60.9%、「どちらともいえない」が21.9%、「いいえ」が7.8%、「無回答・非該当」が9.4%であった。自由意見では、「楽しい時もあれば下級生が困る時もある」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	37	10	1	16
「はい」が57.8%、「どちらともいえない」が15.6%、「いいえ」が1.6%、「無回答・非該当」が25.0%であった。自由意見は特になかった。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	46	6	2	10
「はい」が71.9%、「どちらともいえない」が9.4%、「いいえ」が3.1%、「無回答・非該当」が15.6%であり、高い満足度であった。自由意見では、「そうだけど覚えてない」という声が聞かれた。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	36	18	5	5
「はい」が56.3%、「どちらともいえない」が28.1%、「いいえ」が7.8%、「無回答・非該当」が7.8%であった。自由意見は特になかった。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	44	11	3	6
「はい」が68.7%、「どちらともいえない」が17.2%、「いいえ」が4.7%、「無回答・非該当」が9.4%であった。自由意見は特になかった。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	53	5	0	6
「はい」が82.8%、「どちらともいえない」が7.8%、「無回答・非該当」が9.4%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	47	10	3	4
「はい」が73.4%、「どちらともいえない」が15.6%、「いいえ」が4.7%、「無回答・非該当」が6.3%であり、高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	44	6	0	14
「はい」が68.7%、「どちらともいえない」が9.4%、「無回答・非該当」が21.9%であった。自由意見は特になかった。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	33	6	3	22
「はい」が51.5%、「どちらともいえない」が9.4%、「いいえ」が4.7%、「無回答・非該当」が34.4%であった。自由意見では、「話したことがない」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	37	7	1	19
「はい」が57.8%、「どちらともいえない」が10.9%、「いいえ」が1.6%、「無回答・非該当」が29.7%であった。自由意見は特になかった。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	27	8	6	23
「はい」が42.2%、「どちらともいえない」が12.5%、「いいえ」が9.4%、「無回答・非該当」が35.9%であった。自由意見は特になかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">〇非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">〇非該当</span>
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">〇非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">〇非該当</span>
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">〇非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">〇非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float:right">〇非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	理念や方針を日常実践を通して共有している 年初のキックオフミーティングで理念・基本方針を読み合わせ、法人担当も同席して方向性を揃えている。事務室への掲示に加え、施設長会議・管理者会議で得た内容は職員ミーティングで報告し、議事録を回覧して確認の抜けを防いでいる。学校の長期休み前には、その時期の運営上の判断場面を題材に方針を確かめ、日々のミーティングでは活動計画と子どもの様子の差を点検して対応の修正につなげている。確認事項はミーティングノート等に残し、誰がどのタイミングで共有したかが追える形にして、年度内の確認が継続できるよう取り組んでいる。 子どもの巣立ちを軸に目標を据えている 今年度は、子どもが自信を持って卒会できること、保護者も安心して送り出せることを目標の中心に置いて運営している。自分の身を自分で守る力や、集団の中で自立して行動できる力を育てることを意識し、第一学童やあそびバとの連携も重ねながら長期的な視点で支援している。達成の判断は数値ではなく、子ども自身が達成感を持って次の段階へ進めるかどうかで捉えている。目標は継続課題として位置付け、日々の関わりの中で具体化を図っている。 重要事項を段階的に共有し参画を促している 子どもの生活に直結する問題や行事、環境整備などを重要案件と位置づけ、常勤職員で検討した上で非常勤職員へ伝達している。地域や法人との関わりが必要な内容は、法人と協議しながら進める体制としている。決定事項は法人から施設長、常勤、非常勤へと段階的に共有し、現場での認識を揃えている。保護者にはコドモンでの配信やお迎え時の口頭説明を通して背景を伝えている。日常的な話し合いを重ねることで、職員が運営のねらいを理解したうえで提案や確認ができる状態を整え、役割分担の中でも参画の機会が偏らないようにしている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p><b>多様な機会を通じて環境情報を把握している</b></p> <p>利用者アンケートは市が実施した結果を活用し、集計内容を玄関で閲覧できるようにし、コドモンで周知している。日々の育成場面や職員同士のコミュニケーションからも子どもや家庭の状況を把握し、ミーティングで共有している。地域については、オヤジの会や盆踊り実行委員会、染地地域運営協議会、児童館との連絡協議会などに参加し、直接顔を合わせながら情報を得ている。収集した情報は日々の支援や行事運営の前提として扱い、家庭状況の変化や地域行事の動きがあれば対応の優先順位を調整している。</p> <p><b>職員参画により計画を具体化し組織的に推進している</b></p> <p>事業計画は前年度の実践内容を踏まえて施設長が叩き台を作成し、常勤職員との協議を重ねながら修正を加えている。計画策定の段階から現場の意見を取り入れることで、実情に即した内容となるよう工夫している。大きな行事ではメイン担当とサブ担当を明確に定め、特定の職員に業務が集中しない体制を整えている。担当者が中心となりつつも、日々の打ち合わせで進捗や負担状況を確認し、周囲が支える仕組みとしている。役割分担と協力体制を両立させながら、計画を現場の実践に結び付けている。</p> <p><b>実践の振り返りを計画改善につなげている</b></p> <p>各行事や取り組み後には、定例ミーティングで関わった職員が具体的な場面を挙げながら良かった点や改善点を整理している。その内容は議事録として残し、翌年度の計画検討時に再度読み返して活用している。達成度を数値で示す指標は明確に設定していないが、子どもの変化や保護者の反応、職員の実感を材料として成果を捉えている。日常の対話と記録を通じて実践を振り返り、次の取り組みに反映させる流れをつくっている。振り返りでは、子どもの安心・自立・関係づくりの観点で何が起きたかを言葉で整理し、次年度につなげている。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

### カテゴリ-3の講評

#### 法令と倫理を日常の実践と結び付けて周知している

法令や倫理に関する基礎研修は、市の研修を非常勤職員を含め初年度に受講する体制を整えている。加えて、社会情勢やニュース等で注意が必要な事案があれば資料を回覧し、ミーティングで共有して再確認している。子どもとの適切な距離感や外部から誤解を招かない言動についても具体的に話題にし、場面を想定しながら理解を深めている。時間の経過とともに意識が薄れないよう、節目ごとに振り返りを行い、日常の関わりの中で自らの言動を見直す機会を設けている。

#### 意見や要望を受け止め説明責任を果たしている

利用者や保護者の意見は、市の利用者アンケートの結果や年1回の面談、保護者会での意見交換、日常のやり取りを通じて把握している。寄せられた要望には、クラブの状況や制約を丁寧に説明し、対応の可否や理由を伝えている。対応が難しい内容であっても、まずは受け止めたうえで事実関係を整理し、誤解が生じないように対話を重ねている。意見を言いやすい雰囲気づくりと説明の積み重ねにより、保護者との信頼関係を保ち、日常の運営に反映させている。説明の場面では、誰がどの情報を確認し、どの順で返答するかを職員間で共有している。

#### 学校と地域と連携し社会的役割を具体化している

クラブ長は就任2年目として、小学校との情報共有を密に行い、子どもの生活状況や配慮が必要な点について丁寧に確認している。校庭利用を管理する団体やほかの放課後事業とも連絡を取り合い、利用時間や見守り体制について共通理解を図っている。地域の盆踊りや国領センターでの行事、児童館との連絡協議会にも参加し、顔の見える関係づくりを重ねている。学校を中心とした地域ネットワークの中で、子どもを支える一員としての立場を意識しながら、日常的な連携を積み上げている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p><b>子ども中心にリスクを想定し安全対策を講じている</b>            事故やケガ、感染症、不審者侵入などを主なリスクとして想定し、日常の見守り体制の中で優先順位を判断している。校庭が広く死角も多い環境であることから、小集団での活動や職員配置に配慮し、子どもの動きを把握できる体制を意識している。第1学童・第2学童・あそびの職員同士が顔の見える関係を築き、子どもにも職員の顔を覚えてもらうことで不審者対策にもつなげている。小さなケガであっても必ず報告を受け、原因や対応を確認することで再発防止に生かしている。</p> <p><b>訓練と振り返りを通じ実践力を高めている</b>            避難計画や各種マニュアルは整備されており、訓練の実施前にはそれぞれの立場で留意すべき点を共有している。訓練後には振り返りを行い、気付いた課題や改善点を話し合うことで、形式的な実施にとどまらないよう工夫している。特に振り返りで出た意見を日常の動き方や声かけに反映させることを重視している。BCPは現在作成中であり、法人と連携しながら内容を整理している段階である。訓練を単発で終わらせず、訓練前後の確認事項を記録し、次回計画に戻して更新する流れを持たせている。</p> <p><b>大規模災害時の対応体制整備を具体化している</b>            大規模災害に備えた備蓄は市からの支給品を活用し整備している。避難場所が遠いため、常勤職員は避難経路や引き渡し方法を確認し、状況に応じた対応を想定している。現時点では非常勤職員や子どもを含めたクラブ独自の総合訓練は計画的に積み上げる途上にあるが、学校での訓練状況も踏まえながら役割分担や連絡体制を整理している。災害発生時に子どもの安全確保と保護者への連絡を円滑に行うため、日常の情報共有や顔の見える関係づくりを土台として、引き渡し手順や職員配置の確認を繰り返し行い、判断の迷いが出やすい場面を具体的に想定している。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		<input type="radio"/> 非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	

## カテゴリー5の講評

### 職員の特性を踏まえた配置と育成を進めている

職員配置にあたっては、年齢や経験、得意分野を踏まえたうえで役割を調整し、子どもの育成が安定して進む体制を整えている。得意分野を生かすだけでなく、あえて経験の少ない業務にも関わる機会を設け、成長の幅を広げている。業務が特定の職員に集中しないよう配慮しながら、多様な行事や日常支援に関われるよう役割を組み替えている。現場での実践を通じて力を伸ばすことを基本とし、常勤と非常勤が相互に支え合いながら育成を進めている。

### 研修機会を確保し学びを共有している

市や東京都、法人東京YWCAの研修を活用し、勤務形態にかかわらず参加できるよう調整している。研修後は報告書を提出し、月1回のミーティングで内容を共有している。日々の実践と結び付けながら学びを振り返り、現場での対応に反映させている。参加姿勢に差が見られることも把握しており、研修内容を日常の場面に置き換えて話題にするなど、学びの意味づけを共有する工夫を行っている。受講の有無だけで終わらず、何を持ち帰りどう試すかをミーティングで確認し、共有の機会を積み重ねている。

### 個々の成長を踏まえ評価と改善に結び付けている

職員の成長や取り組みは、日々の関わりやミーティングでの発言、子どもへの対応の変化を通じて把握している。配慮が必要な子どもへの支援など具体的な事例を取り上げ、どのような関わりができていたかを振り返っている。消極的な姿勢が見られる職員に対しては、役割の意味や仕事の魅力を丁寧に伝え、前向きに関われるよう対話を重ねている。評価を一律に行うのではなく、個々の状況に応じて次の育成の方向を考え、実践の改善につなげている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

高学年の子どもの在籍が増加する中で、学童クラブを「安心して長く在籍できる場」とするだけでなく、「自ら判断し行動できる力を育て、次の居場所へ自信をもって移行できる力を養う場」と位置づけ直す必要があると整理している。背景には、保護者にとって学童クラブが安全装置のような存在となり、子ども自身が自立に向けて挑戦する機会が限定されがちであるという課題認識がある。そこで、いきなり自立を求めるのではなく、日常生活の中で段階的に役割を持たせる方針を明確にしている。職員が一人ひとりの発達段階や性格特性を観察し、信頼関係を築いたうえで、行事の企画補助や下級生への声かけ、集団のまとめ役など具体的な役割を設定している。また、あそびバなど学童クラブ以外の居場所の活用を紹介し、段階的に併用利用を促すことで、子どもが複数の選択肢を持てる環境づくりを進めている。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取り組みの結果、学童クラブとあそびバを日によって使い分ける子どもが増え、自分の過ごし方を主体的に選択する姿が見られている。クラブ内では役割を担うことで責任感が芽生え、下級生への配慮や自ら考えて動く行動が増えている。一方で、保護者の中には学童クラブに在籍していれば安心と捉え、学童クラブからの利用形態の提案や卒会に向けた段階的支援の意図が十分に伝わらないケースもある。子どもにとっての適切な利用形態を保護者と共有することが難しい場面が課題として残っている。現在は個別面談や日常のやり取りを通じて説明を重ねている。あわせて、自立のプロセスをどの段階で何を示すのか、保護者が理解しやすい言葉と示し方を職員間で整理している。卒会に向けた段階的支援の意図を共有できた家庭ほど、利用形態の選択が具体化しやすい状況が見られており、説明の筋道をそろえることが次の検討事項として残っている。

**評価項目2**

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

**前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)**

第1学童・第2学童・あそびバが同一校庭を共有する環境にあることから、施設の違いによって子どもへの支援が分断されることを防ぎ、一体的な居場所として機能させることを重要課題としている。背景には、施設が分かれていることで情報共有が不十分となり、子どもの理解や対応に差が生じる可能性があるという懸念がある。そのため合同ミーティングを実施し、子どもの生活状況や配慮事項を具体的に共有している。広いグラウンドという環境を活用し、子どもが複数施設の職員の顔と名前を覚え、自然に声をかけ合える関係づくりを進めている。また、学童クラブからあそびバの映画会などへ招待する機会を設け、交流のきっかけを意図的に増やしている。職員同士も日常的に顔を合わせることで、施設間の心理的な垣根を下げる取り組みを重ねている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

**評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評**

連携強化により、職員間で子どもの情報が円滑に共有され、支援の方向性が統一されている。子どもが学童クラブとあそびバを状況に応じて選択する姿も見られ、複数の居場所を行き来することへの心理的負担が軽減されている。職員同士も相互に声をかけ合い、必要に応じて見守りや支援を補完する関係が形成されている。一方で、あそびバから学童クラブへの利用には制度上のルールや手続きの違いがあり、双方向の利用が進みにくい場面が残っている。現在は交流機会を増やすことで理解を深めているが、利用の流れを保護者が誤解なく把握できる説明の組み立て、手続きの違いによるつまづきやすい点の整理が課題として挙げられている。3施設の特性を生かした一体的な居場所として機能させるため、制度面と運用面の両方を見比べながら検討を継続している。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>調布市や法人のホームページに掲載し、入会希望者への情報提供に取り組んでいる</p> <p>調布市のホームページにおいて入会の募集情報を掲載するとともに、学童クラブ内にもポスターを掲示して情報提供に努めている。また、法人のホームページにおいても学童クラブの写真や受け入れ人数を掲載し、入会を検討する家庭が具体的なイメージを持てるよう工夫している。さらに、毎年3月上旬に開催する入会説明会では、入会案内資料を配付し、詳細な説明を行うことで、保護者の理解を深めている。保護者説明会を開催しており、ニーズのある保護者もいるので、学童クラブから連絡して個別に説明したり、支援につなげている。</p> <p>各種の案内は保護者のもとより、子どもにも分かりやすい表記としている</p> <p>市役所以外には、小学校や保育園などにも入会案内を配布している。資料の内容は見やすく、視覚的な表現なども用いて整理するなどにより、保護者のもとより、子どもにも分かりやすい表記としている。また、年度初めに保護者会を開催し、保護者が直接質問しやすい機会を設けている。行政や関係機関に対しても年間行事や関係資料を配付するなど、情報共有を積極的に進めている。さらに、学童クラブの見学については、希望者に対し日時調整を行い、運営中の短時間説明や、運営時間外の詳細な案内を実施している。</p> <p>運営時間外での見学時にも基本的には対応している</p> <p>電話での問い合わせには常勤職員が対応し、応じた内容を記録することで対応の一貫性を確保している。また、見学希望に対しては、運営時間内は短時間の説明を行い、運営時間外での見学時にも基本的には対応している。施設概要や育成内容、遊びの様子を丁寧に伝えるなど、状況に応じた対応に努めている。こうした個別対応により、利用希望者が学童クラブの雰囲気や活動を理解しやすくなるよう配慮している。さらに、関係機関を通じて学童クラブの年間行事や関係資料を配付するなど、地域への情報提供が行われている。</p>		

サブカテゴリ-2	
2	サービスの開始・終了時の対応
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/8	
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている <span style="float: right;">評点(○○●)</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <span style="float: right;">評点(○○○○○)</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望が決められた書式に記録し、把握している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
サブカテゴリ-2の講評	
<b>開始にあたり、基本的ルール等を子どもや保護者の状況に応じて説明している</b> 保護者へは入会説明会、子どもへはオリエンテーションを開催して、開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している。個別面談を実施して、利用開始にあたって説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している。説明会では発信する情報が多いことに配慮して、資料などを改良し少しでもわかりやすくするよう努めている。子どもの健康状況やアレルギー、障害の有無、既往歴、身辺自立の状況などを詳細に確認し、学童クラブ入会面談記録に記録したうえで、適切に管理・保管している。	
<b>退会時には、保護者や子どもに生活の連続性を考慮した支援を実施している</b> 発達面で特に配慮が必要な子どもの受け入れに際しては、入所前の親子面談、保育園、発達センターへの聞き取りを行い、配慮及び環境整備を行っている。卒会後に相談にきた場合にも、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行うよう心がけている。また、関係機関と連携し、特に配慮が必要な子どもについては資料を作成して情報を共有している。さらに、退会時には、保護者や子どもに声かけを行い、生活の連続性を考慮した支援を実施している。	

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の  
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

育成支援の計画は、「安心して楽しく過ごす」を掲げている

入所の際に提出される児童状況書と保育園からの聞き取り調査書を合わせてファイリングし、個々の子どもの背景や成育歴、入所前の様子を把握できるようにしている。育成支援の計画は、「安心して楽しく過ごす」を掲げており、目標に沿って年間を見通して作成している。発達面で特に配慮が必要な子どもに対しては、子どもの年齢・発達の状況などに応じて、毎月のミーティングにおいて個別的な計画の作成、見直しに取り組んでいる。必要な記録を残すことで、職員間の情報を目に見える形でいつでも確認できるような環境を整えている。

各種の記録によって、子ども一人ひとりの姿を把握してる

児童状況書、育成日誌、障害児・要配慮児支援日誌などを設けており、育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している。個々の子どもについては児童台帳を作成し、気になる様子や支援の必要性を随時検討している。特に支援が必要な子どもについては、日誌の特記事項に記載し、対応内容が複雑な場合は児童台帳第2号様式や児童育成記録に詳細を記録することで、職員間での情報共有を図っている。また、保護者との連携を強化するため、重要事項は連絡カードを活用し、適切に伝達している。

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和り取りする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>入会面談時には個人情報の取り扱いに関する同意書を取得している</p> <p>入会時に個人情報同意書の提出を得ている。書類などで情報を共有する際には、子どもの名前はイニシャルまたは名前のみひらがなで表記するなどの配慮をしている。個人情報やプライバシーに関する研修を実施し、職員のプライバシー保護への意識向上を図っている。さらに、マニュアルを整備し、適切な情報管理を徹底している。保護者と重要な話をする際には、ほかの保護者に情報が漏れないよう、プライバシーに配慮した環境を確保するよう努めている。</p> <p>保護者の価値観には極力配慮するよう心がけている</p> <p>保護者の価値観には極力配慮するよう心がけながらも、学童クラブとしてできることとできないことがあると明確に伝える必要がある。子ども一人ひとりの意思を尊重し、子ども自身が自ら考え判断して行動できるようにしている。また、日々の活動を通じて体験の機会を提供できるように工夫している。子どもとも個人面談を行い、面談で得られた子どもの価値観や、生活習慣、個別の意向などを丁寧に吸い上げ、職員間で共有し、子どもの成長に意味のある支援につながるよう努めている。</p> <p>虐待ケースが発生した際には、所管課や学校と連携し対応する体制を整えている</p> <p>虐待あるいは虐待が疑われる事象の対応については、職員は常にアンテナを張りながら、必要に応じて関係機関との連携が取れるように体制を整えている。虐待対応マニュアルの徹底と、市が行う研修を毎年職員は受講し、職場報告で共有している。虐待未然防止のため、マニュアルの確認を行うと同時に、新たな学習の機会を持つことに努め、学び続ける姿勢と意識が職場に浸透することを目指している。さらに、虐待が疑われるケースが発生した際には、所管課や子ども家庭支援センター、学校と連携し、迅速な対応を行う体制を整えている。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p>マニュアルで不明瞭なことは市と連携して改善する流れとしている</p> <p>調布市による学童クラブ職員マニュアルをもとに、学童クラブが提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている。市の会議等での意見交換や確認を行って、提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている。マニュアルで不明瞭なことは市へ確認することになっている。運営マニュアル等が整備されており、事務室に置かれいつでも確認できるようにしているが、定期的な改定基準は現時点では明確ではなく、不定期で、長期間改定・見直しがなされていないものもある。</p> <p>より現実に即した内容の手引書の作成の必要性を認識している</p> <p>クラブでは、より現実に即した内容の手引書の作成の必要性を認識しており、手順書やマニュアルで確認することもあるが、日常的に振り返る存在になっていないことがうかがえる。現場の学童クラブは市の統一基準の中で行うことが指示されているため、業務の標準化に対して当学童クラブ独自の部分もリーディングができる位置づけではないことが標準化を遅らせている一因と思われる。保護者や子どもから上がってくる意見や要望などには丁寧に対応し、市に上げるとともに、作業標準を明確にして見える化へ変化させる環境づくりが今後は期待される。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>職員間で子どもの様子を共有し関わり方を検討している</p> <p>子ども一人ひとりの様子については、日常の関わりの中で把握するとともに、月例ミーティングを通じて職員間で確認している。朝の打ち合わせでは前日の出来事や気になる子どもの様子を共有し、月のミーティングでは子どもへの関わり方について話し合う時間を設けている。日々の出来事は育成日誌やミーティングノートに記録し、出勤日が異なる職員も閲覧し確認できるようにしている。対応に1つの正解があるわけではないという認識のもと、職員同士で意見を出し合いながら関わり方を整理し、子どもの状況に応じた対応につなげている。</p> <p>異年齢の関わりを生活の中で経験できるようにしている</p> <p>学童クラブでは異学年で構成された班活動を取り入れ、おやつ時間を一緒に過ごし、当番ではあいさつ、テーブル拭き、掃除などの役割を分担して行いながら、生活の中で子ども同士の関係が広がるよう援助している。日常の遊びでは同学年同士で過ごすことも多いが、好きな遊びや集団遊びなどを通じて仲良くなる姿も見られている。背景の異なる子どもについても、職員が状況を把握しながら見守り、関わりを支えている。</p> <p>子どもの気持ちを聞きながらトラブルへの対応を行っている</p> <p>遊びの進め方をめぐって意見が分かれるなど、トラブルが生じる場面もあるが、学童クラブはワンフロア環境であることから職員が目が届きやすく、子ども自身も何かあった際には職員に相談に来る姿が見られている。その際は双方の話を聞きながら状況を確認し、そのうえで子ども同士が考えながら話し合うことを大切に、関係が続いていくことを意識した対応を行っている。個別に配慮が必要な子どもについても見守りを基本としつつ、声かけの方法や遊びへの入り方を工夫しながら関わり、ほかの子どもとの関係が広がるよう支援している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもが自分の過ごし方を選べる環境を整えている</p> <p>子どもが自分で過ごし方を選びながら活動できるような環境を整えており、室内には本や漫画を読むスペースを設け、棚で空間を分けるとともにマットを敷くことで、落ち着いて過ごせる場所を確保している。マットのスペースでゆっくり過ごす、好きな玩具で遊ぶなど、それぞれの興味や気分に応じて過ごす姿が見られている。また、授業終了後には校庭での外遊びの時間を設けており、多くの子どもが戸外で体を動かすことを楽しみにしている。外に出る際には名札を用いて遊び場ごとに区別できるようにし、活動の状況を把握しながら見守ることにしている。</p> <p>生活の流れを繰り返し経験する中で、子どもが見通しを持って行動できるようにしている</p> <p>下校時間は学年によって異なり、塾や習い事などにより学童クラブからの帰宅時間もそれぞれになる場合が多い。長期休みの1日育成においても利用時間は子どもによって異なるため、こうした生活状況を踏まえながら1日の流れを掲示し、子どもが見通しを持って過ごせるようにしている。日々の育成では勉強時間を一律に設けず自由としているが、外遊びは時間を決めて実施している。終了時には笛で知らせることで活動の切り替えを意識できるようにし、その後は帰りの会を行い、1日の出来事を共有するとともに職員からの連絡事項を伝えている。</p> <p>日常生活の中で基本的な生活習慣を身につけられるようにしている</p> <p>基本的な生活習慣については、日々の生活場面を通して子どもに伝えており、手洗いの方法や石けんの使用、ハンカチの持参などについては掲示でも示し、子どもが確認しながら行動できるようにしている。帰りの会でも必要に応じて声をかけることで、生活の中で意識できるようにしている。帰宅時は帰りのコースごとに並び人数確認を行うなど、集団で行動する際の流れについても共有している。日々の生活の中で繰り返し伝えることで、子どもが自分で気づき行動できるようにするとともに、集団生活の中で必要となる基本的な習慣が身につくよう援助している。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3の講評

**子どもが中心となって進める行事を実施している**

放課後の生活の中に変化を持たせる活動として、毎月の誕生日会や季節行事を企画し実施につなげている。誕生日会はおやつに行き、ゲームを取り入れながら誕生日を迎える子どもを祝う時間としている。おやつについても子どもの意見を取り入れ、ドーナツなど普段とは異なる内容を取り入れている。夏には水遊びを取り入れたウォーターフェスティバルを行い、水鉄砲や水風船などを使った遊びを楽しんでいる。布田学童クラブ1・2合同で実施することで、普段とは異なる雰囲気の中で活動を楽しめる時間となっている。

**子どもが意見を出しながら活動づくりに関わっている**

行事や日々の活動において子どもの意見を反映できるようにリクエストボックスを設置し、遊びや本、おやつなどについても子どもが自由に意見を出せるようにしている。4月には3年生を集めて学童クラブの生活について話し合う機会を設けており、その中でおもちゃ委員会、本・マンガ委員会、おやつ委員会、ピカピカ委員会が発足した。委員会ではリクエストを募ったりポスターを作成したりするなど子ども自身が活動を進めている。夏の縁日では3年生が実行委員となり、テーマやゲーム内容を考えるなど行事づくりに積極的に関わる姿が見られている。

**行事の様子を家庭に伝え保護者にも活動を知らせている**

行事の実施にあたっては、お便りを通して内容や目的について事前に案内を行い、子どもたちがどのような活動に参加するのかを保護者が把握できるようにしている。行事終了後には当日の様子を写真でまとめ、コドモンを通して共有し、ゲームや準備に関わる様子なども伝えることで、学童クラブでの生活や活動を具体的に知ることができるようにしている。小学校教諭を招くこともあり、子どもたちが学童クラブでどのように過ごしているかを学校関係者にも知ってもらう機会となっている。家庭や学校と情報を共有しながら行事を実施している。

4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4の講評

**子どもが生活づくりに関わる機会を設けている**

学童クラブの生活では、職員が活動内容を決めるだけでなく、子ども自身が生活づくりに関わることを大切にしている。3年生を中心に委員会活動では、読みたい本のアンケートを集計したり、おやつ希望をまとめたりするなど、子ども同士で意見を出し合いながら活動を進めている。活動内容は子どもたちの前で発表する機会もあり、学童クラブの生活に関する取り組みを子ども自身が担う経験となっている。上級生が役割を持って活動する姿は下級生のあこがれにもなっており、学年を越えて生活づくりに関わる意識が育つ場面となっている。

**子どもの気持ちを尊重しながら日常の関わりを行っている**

入会したばかりの1年生には、生活に慣れていけるよう職員が丁寧に関わり、登所後の過ごし方や遊びの場所を一緒に確認したり、遊びに入りにくい様子が見られる際には職員が仲立ちをしたりするなど、安心して過ごせるよう配慮している。また、子どもが一人で過ごしたい気持ちを示した場合にはその思いも尊重している。日常の関わりの中では子どもの話を聞くことを大切に、言葉の使い方や相手への伝え方についても伝えている。雨の日には工作や絵を描く活動を用意し、室内でも子どもが自分の過ごし方を選びながら活動できるようにしている。

**見通しを持って生活できる環境を整えている**

子どもが一日の流れを理解しながら過ごせるよう、毎日の予定をホワイトボードに掲示しており、登所後は活動の予定を確認することで子どもが次の行動を考えながら生活できるようにしている。また帰宅方法ごとにコドモンカードのケースを分けて配置し、子ども自身が帰宅方法を確認できるようにしている。帰りの会ではその日に楽しかった出来事を発表する時間を設けることで、子どもが自分の経験を言葉にする機会を持つようにしている。放課後子ども教室との共同プログラムとしてドッジビー大会やポッチャなどの活動も行っている。

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p><b>小学校との情報共有を通して子どもの様子を確認している</b></p> <p>子どもが学童クラブで安心して過ごせるよう、小学校との定期的な情報共有の機会を設けており、小学校とのミーティングには施設長が参加し、布田学童クラブ1・2や放課後子ども教室あそびバの担当者とともに活動内容や子どもの様子について確認している。日常生活の中で気になる様子が見られた場合には個別に伝えるようにしており、学校側から子どもの様子を確認するために学童クラブを訪れることもある。忘れ物を届けるなど日常的なやり取りもあり、子どもの生活の場として学校と学童クラブが互いに状況を把握できる関係となっている。</p> <p><b>学校生活の状況を踏まえて子どもの様子を共有している</b></p> <p>小学校での生活と学童クラブでの生活は連続していることを踏まえ、学校での子ども同士のトラブルや子どもの様子などについても都度、情報共有を行っている。子ども同士のトラブルや気になる様子があった場合には学校と情報を共有し、状況を確認しながら関わるようにしている。現在、不登校などの課題を抱える子どもはいないが、学校生活について配慮が必要な場合には学校や保護者と情報を共有しながら対応することとしている。学校とのやり取りを通して、子どもの生活全体を踏まえた関わりができるようにしている。</p> <p><b>必要に応じて関係機関と連携する体制としている</b></p> <p>子どもの生活の中で配慮が必要な状況が生じた場合には、学校や保護者と情報を共有しながら関係機関と連携する体制としている。現在は関係機関と連携して対応している事例はないが、子どもの状況によっては学校を通じて情報を共有するなど必要な支援につなげることとしている。学童クラブ内では子どもの様子について職員間で共有しながら関わり方を確認しており、学校や家庭と連携しながら子どもが安心して生活できるよう対応することを基本の考え方としている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作り等に配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>子どもがおやつを楽しめるよう援助している</b></p> <p>おやつ時間は、子どもが落ち着いて過ごせる生活の一場面として位置づけており、日々のおやつは献立表を作成し、内容を確認しながら提供している。常勤職員が内容を確認し、アレルギー物質や賞味期限の確認を行うなど安全面に配慮している。メニューは同じものに偏らないよう考え、季節や行事なども感じられる内容も取り入れるようにしている。誕生日会では3年生のリーダーと相談しながらメニューを考えるなど、特別感のある内容となるよう工夫がされており、子どもが楽しみにできる時間となるよう配慮して提供している。</p> <p><b>子どもの状況を踏まえながらおやつの内容に工夫をしている</b></p> <p>子どもの生活の状況を踏まえながら、おやつの内容や提供方法を工夫している。おやつについては子どもの希望を聞く機会を設けており、アンケートを集計して出来る限り希望を取り入れるように努めている。アレルギー児の保護者に対しては日常的に提供しているメニューを知らせ、食べられるものを家庭から持参してもらう場合もある。おやつの内容について子どもや家庭と情報を共有しながら提供することで、子どもが安心して食べることができるようにしている。</p> <p><b>食物アレルギーへの配慮を行い安全な提供に取り組んでいる</b></p> <p>食物アレルギーのある子どもについては誤食が起こらないよう管理しており、持参した食品には名前を記入し専用の引き出しで保管している。提供時には専用の皿を使用し、麦茶用のコップも分けて用意している。エピペンを所持している子どもについては毎週月曜日に確認を行い、夏休み期間中も継続して確認を行っている。エピペンはランドセルに入れて管理しており、必要時に対応できるようにしている。1日育成の昼食時にはトレイを使用し職員の近くで食事をするなど見守りを行い、子どもの状況に応じた安全な提供に取り組んでいる。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日常の関わりの中で子どもの体調の変化に気づけるように努めている</p> <p>日常の関わりの中で体調や様子の変化に目を向けるようにしており、普段と比べて機嫌が悪い様子や元気がない様子が見られた場合には声をかけて体調を確認している。必要に応じて体温を測り、微熱であっても保護者へ知らせるなど家庭と情報を共有している。感染症が流行している時期には体調の変化に注意を払いながら対応しているほか、乾燥する季節には水分補給の声かけを行うなど、日常生活の中で健康面に配慮している。子どもの様子を見ながら関わることで、体調の変化に気づけるように努めている。</p> <p>安全や健康に関する対応を職員間で共有している</p> <p>子どもの安全と健康を守るための対応について職員が理解できるよう研修を受けている。市が実施するエビペン研修に職員が参加し、必要時の対応を確認している。嘔吐処理のための対応セットを事務所に置き、必要な場面で対応できるようにしている。校庭で遊ぶ際には危険になりやすい場所にも目を向けながら声をかけ、ケガの予防にも配慮している。子どもが安心して活動できるよう、健康や安全に関する対応について職員が確認しながら日々の育成を行っている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者とは安心して預けてもらえる関係作りを心がけている</p> <p>行政や学校へお便りを配付し、保護者会や親子交流会を実施して、家庭同士の交流もできる機会を設けている。日常的に話しやすい環境づくりに努め、保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている。個人面談を実施しており、子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている。お迎えにきた保護者には、その日あったことや成長を感じたことをこまめに伝えていく。ケガやトラブルは小さくても保護者に伝え、安心して預けてもらえる信頼関係が構築できるよう心がけている。</p> <p>アプリや電話により保護者と密に連絡を取り、子どもの出欠席の確認している</p> <p>コドモンや電話で子どもの出欠席の確認などを保護者と密に連絡を取ることで、安全を確保する取り組みを行っている。ただし、出欠席や早退の連絡がない、提出物が滞る保護者が少数ではあるが一定数いることが課題となっている。お迎え時には、その日の遊びや過ごし方の様子を伝えることで、保護者と日々の様子を共有している。さらに、個人面談や保護者会を定期的に開催し、子どもの発達や成長について保護者と共通認識を持つ機会を設けることで、保護者が安心して子どもを預けられる環境づくりを目指している。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活かし、地域との関わりを一層広げる取り組みが期待される</p> <p>夏に小学校の校庭で行われる盆踊り大会では、事前の盆踊り練習に参加し、学校のPTAや地域の方と交流を図っている。ただし、児童館まつりやオータムフェアは会場が布田小から少し離れているため参加が少ないことを懸念している。周辺には自然や広場、公園が多く、散歩や身体を動かす遊びを積極的に取り入れ、子どもが自然と触れ合いながらのびのびと活動できる機会が設けられている。地域の様々な環境や人と関わる機会が確保されていることを踏まえ、今後も地域資源を活かした活動を充実させ、さらに広げていく取り組みが期待される。</p> <p>子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している</p> <p>児童館まつりへの参加、国領センターオータムフェアへの参加などによって、学童クラブの行事に地域の方の参加を呼びかけたり、地域の行事に参加するなど、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している。クラブは布田第二小学校内に位置しており、同一敷地内にある布田第一学童クラブとの交流も行っている。第一学童クラブの子どもが当該学童クラブの子どもと一緒に遊ぶ姿もよく見られており、一緒に遊んで交流を深めることができる環境となっていることがうかがえる。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	3施設連携で一体的居場所形成を推進している	
内容①	第1学童クラブ・第2学童クラブ・あそびバが同一校庭を共有する特性を生かし、合同ミーティングや日常的な情報共有を通じて子どもの状況や配慮事項を丁寧に共有している。広いグラウンドで活動する中でも、子どもが複数施設の職員の顔と名前を覚え、自然に声をかけ合える関係づくりを意識している。学童クラブからあそびバの映画会などへ招待するなど交流機会を増やし、利用の垣根を低く保ちながら選択肢を広げている。職員間の理解も深まり、施設の違いにとらわれない一体的な支援体制を築いている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル②	スケジュールを臨機応変するなど、利用開始直後の子どもに配慮している	
内容②	新1年生には、子どもの体力に合わせてスケジュールを変更したり、個々に対応することになっている。また、上級生が学童クラブでの遊びや過ごし方を発表することで楽しく過ごせるイメージを持てるよう工夫をしている。保育園や学校とこまめに情報共有を行い、スムーズに学童クラブの生活に移れるよう配慮することを心がけている。スケジュールを臨機応変に対応したり、環境に慣れるよう滞在時間を少しずつ長くする提案を行うなど、利用開始直後は、子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-4	子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている
タイトル③	子どもが主体的に関わる生活のしぐみがある	
内容③	リクエストボックスの設置や委員会活動を通して意見を出し合い、子ども自身が役割を持って活動に関わる経験につながっており、行事においても子どもが企画や進行に関わる姿が見られている。異学年の班活動ではおやつ当番や掃除などを協力して行い、生活の中で学年を越えた関係が生まれている。子どもの意見を取り入れながら生活づくりを行うことで、子どもが学童クラブの生活に主体的に関わる姿が見られている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員間の情報共有が円滑に行われ適切な支援につなげている
	内容	日々のミーティング、毎月の定例ミーティングや研修などを通じて共有している。また、施設長は施設長会議、法人内責任者会議、学校との遊び場（第一、第二ともに出席）児童館運営委員会議なども参加して、事業環境に関する情報収集にも取り組んでいる。また、毎月1回の定例ミーティングでは、子どもや保護者の状況の変化について情報共有し、支援の方向性を検討している。さらに、子ども一人ひとりの理解を深めるため、定期的な振り返りを行い、具体的な支援方法の見直しを進めている。
2	タイトル	子どもが安心して生活できる環境づくりを大切にしている
	内容	当学童クラブは開設から3年目であり、子どもが気持ちよく過ごせる環境を維持できるよう、日頃から清掃や整理整頓に取り組んでいる。片付けや環境整備などについても興味を持ち、お手伝いに進んで関わる子どもの姿も多く見られており、その気持ちを受け止めながら活動を進めている。また、遊びや生活の場面では危険につながる行動に声をかけながら見守り、大きなケガにつながらないよう配慮するなど、子どもが安心して過ごせる生活環境を整えながら日々の育成を行っている。
3	タイトル	理念を共有し職員協働で育成を具体化している体制を整えている
	内容	東京YWCAの理念や学童クラブとして大切にしている方針を、入職時の説明や定例ミーティングの場で具体的な事例と結び付けながら繰り返し確認している。子ども一人ひとりの発達段階や家庭状況を踏まえた関わりについて職員間で共有し、常勤・非常勤の区別なく意見交換を重ねている。日々の育成場面で迷いが生じた際にも理念に立ち返りながら対応を検討しており、組織全体で一貫した育成を進めている。3施設連携の環境下でも情報共有と役割分担を工夫し、子どもの安心と巣立ちを支える視点を共通認識として保っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	アプリを有効活用し、行事や日常の様子を写真等で保護者に伝えることを目指している
	内容	保護者が家庭状況を含めて情報共有できる関係性がある。お迎え時やコドモンの連絡帳を通じて日頃から学童での子どもの様子を伝えている。ケガやトラブルなどは小さくても保護者に連絡し、安心して子どもを預けられるよう信頼関係を築いている。仕事や子育ての労をねぎらい寄り添うことを大切にしている。心配事や相談のある保護者とはいつでも電話や面談で対応し傾聴を心がけている。さらにコドモンを有効活用し、行事や日常の様子を写真等で保護者に伝えることを目指している。
2	タイトル	子どもの状況に応じた関わり方の共有を進めていくことを課題としている
	内容	子ども同士のトラブルが生じた際の対応や報告の仕方については、職員の勤務時間や経験の違いなどあることから、対応の考え方を確認する機会を設けていくことが必要と捉えている。子どもの状況やその場の状況によって関わり方が変わる場面もあるため、日常の事例をもとに対応の仕方について職員間で確認していくことを課題としている。また、子どもの成長や状況に応じた関わり方についても整理し、職員間で共有を進めていくことで、子どもへの関わり方をより共通理解のもとで行えるようにしていくことを目指している。
3	タイトル	達成指標を明確化し計画評価を構造化することが期待される
	内容	事業計画は前年度の実践内容を踏まえて策定し、行事終了後には関わった職員が良かった点や改善点を整理して次年度へ反映しているが、達成度を測る具体的な数値指標や行動指標は十分に整理されていない。現在は子どもの様子の変化や職員の実感を基に評価している状況である。目標ごとに到達像や確認方法を明示し、計画段階から評価視点を組み込むことで、実施と検証をより客観的に接続し、組織的な改善循環を明確にする必要がある。